

伝えつづけたい文化

盛岡市立 横城小学校五年 山田 永菜

私は生まれも育ちも盛岡だ。旅行で一番ワクワクするのは、帰りの新幹線だ。

何で？と思うだろう。

私には発達障害がある。発達障害の症状は、葉が自分に合っていない、こういう時はこうすればいい、と自分で判断出来るようになってきた。だが成長して二次障害が~~出~~始めた。新幹線やエレベーターに~~乗~~乗れなくなった。だから

2

旅行で一番好きなのは盛岡に帰る新幹線なのだ。姉も言うのだが、新幹線が盛岡に着いて降り立つと、とても安心する。なぜだろう。

去年、私は感覚過敏で出るのが難しいのではないかと言われた。盛岡さんさおとりに学校の四年生として出ることか出来た。大きな音、匂い、人混み、直ぐには出られない。

悪条件ばかりだった場所で、私がさんさおとりに太こで出られたのはなぜだ、たのだろう。

六月になると、あちこちから、さんさの太

この音が聞こえてくる。今年もこの季節が来たな、と感じる。私は小さなころから大きな音が苦手だった。パレードなんて出れる状態ではなかった。でも、学年でみんなが出ると知って、どうしてもみんなを出たかった。最初は太鼓、四年生のお母さんの知かせで踊る人たちだけの練習が一日あった。おどりは、元ミスさん先生の教えに来る。れるのと太鼓モペテランの先生が教えてくれる。私は、この二人の先生にす。かり心が

をきこまれてしまった。四年生のパレードが大成功で終わった私は、次のステップが見つか。た。ミス太鼓になりたいと思。た。とさおどりの後、学校の授業で、地域の伝統を知らると言う学習で私たちはさんさおどりの由来や、歴史について学習した。おどりを教えるに来てくれている。元ミスさんの坂本先生にも学校に来てもらって、学習した。

地域の伝統を守る、ということはあるからある良い所をなくさずに、新しいことを取り入

れていく、と。いつのことだ。だが、今までずっと続いてきた伝統を少し新しくしていくことは、大抵のみなさんが困惑する。良くも悪くも古き良き、が良いという人た考もたくさんいるからだ。

そんな中、ずっと続いてきたさんとおどりに二〇二二年、新たにおどりが加わった。それが五番、吉希翔。

さんとおどりのパレードで五番を取り入れる所は伝統を大事にしミスさんさが多く、

一般の団体はおどりに入れにくい。私も、叩けるのは四番の福呼までで、五番は難しくてまた叩けないう。

私は、自分が生まれ、今生活しているこの盛岡で伝統を伝える一人になりたいと思っている。

そのために私は今年、二つのことをやってみた。一つ目はちびっこさんと一緒に参加すること。四日間出続けることは大変だったが、ミニ太鼓になった気分だった。

もう一つは、さんさおどりの発祥、三ツ石神社に行ってお詣りすること。

七月にミ又さんさのみなさんが、おどりを奉納した三ツ石神社に来れたことは、何とも言えない気持ちになつた。

私にとってのふるさと、岩手県盛岡市。山や川に恵まれた美しい都市。

7
私の学校の校歌にも、南部富士や北上の、と言つた歌詞が出てくる。美しい自然あふれたこの地は、私たちのほこりだ。

8
その中で、私にしては岩手の由来にも存つた三ツ石に鬼に手形をおさせて、それを祝つて、さつこらと踊り祝つたさんさおどりは、県外の人にも海外の人にも伝えて、きたい文化なのだ。

私も、大人になつたら、やがて四年生になったら、さんさおどりにでるであらう小さい子供たちに、さんさおどりの美しさ、楽しさを、おと伝え続けられるようなミス大鼓として学校に戻ってきたいと思つている。

変わらないう伝統、変えていくべき伝統、変えてはいけないう伝統。

盛岡の人たちみなが、この盛岡を守るため、学校で学習したり、実際に教えるたりして大切を守りながら、つないでいく。それは、一人きりだけではなく、美味しい水や米、野菜や南部鉄器、三大麺、技術や味、つないでいくものかたき一人ある。

かの石川啄木の有名な短歌が県内のあちこちにある。

10

9

「ふるさとの山に向ひて 言ふことなし
ふるさとの山は ありがたエかなレ
ふるさとの山を見ていれば、それまで色々思つてゐたこと、なやんでいたこと、まきんてこまつて言うことかな、と私は読み解いて
いる。

山を守つていく人たちがいるように、私は十六才になつたら、ミス太鼓になり、たきさんのトに、そして自分の後はいに、ふるさつを継承していったかと思つてゐる。